

項に付て 八月二十七日 集金受領印統一に付いて

(一)東京選信局長會見の顛末 板橋王子兩局幹部の卑劣なる組合壓迫に付いて (ト)支部長會議の顛末(八月二十一日) (チ)名古屋地方支部問題の顛末 (リ)京都七

條支部結成經過...八月七日發會式、組合員五十名支部 二、會計報告 A、通常會計 B、特別會計 以上一括承認

家社會黨最近の情勢

A、労働委員會 黨支持各労働組合の全国的統一問題に關し八月二日並に十日開催されし委員會更に八月十八日開催されし黨支持労働組合代表者懇談會に於ける協議の結果左の如く決定す

一、國家社會主義を指導精神とする労働組合の全国的の協議會を作ること

二、結成大會を九月中旬舉行すること

三、準備委員に左の八名を擧げて一切を一任すること

國家社會労働同盟 望月 源治 安藝 盛

全日本製米従業員聯盟 山中繁太郎 永島 平一

全日本一般産業労働組合 野口 榮治 石黒 定吉

運友同志會 當 清 高地 俱善

四、結成後は、事務所を統一し機關紙を發行すること

議事

一、第八回大會に關する件 イ、大會期日九月二十五日午後一時より十時まで

後一時より十時まで ロ、會場 協調會館

割當率 前同通り ニ、大會豫算 金貳百五拾圓、組合員一名に付拾圓徴收する事但地方支部は之を徴收せず

ホ、大會籌備委員 東京地方各支部二名以上を出す事

ヘ、議案 各支部一名の整理委員を擧げて整理を一任する事 支部提出六十三案、本部提出五案。

以上の如く決定して七時散會したが本部提出案として

一、共済部設立の件

二、一萬圓國庫基金積立に關する件

三、國際労働會議排撃の件

四、綱領主張並に運動方針書發表の件

五、本部機関一部改正の件

本會組織變更の經過

本年四月十六日芝協調會館に開催された第二回評議委員會は、萬場一致を以て一選友同志會獨立に關する件を決定した。即ち本會發展史上特筆される可き重要な評議委員會であつた。故に特に右評議委員會記録を詳細に報告すると共に當時右議案の提出されたる経緯につき記する事とする。

第二回評議委員會(擴大評議委員會)議事録

昭和七年四月十六日午後七時より、芝協調會館小講堂に於て。

出席者氏名 (本評議委員會は特に擴大評議委員會とし、規約に依る評議委員定員の倍數を各支部長より信任出席せしめたり。

- | | | | | | |
|--------|--------|---------|---------|-----------|-----------|
| 藤本昌之助 | 小澤 政信 | 櫻井 彦郎 | 高橋民之助 | 森 安 嚴 | 南 泰 雄 |
| 中村和氣知 | 小川専次郎 | 鈴木安太郎 | 植田 覺美 | 金井 理吉 | 森下 親司 |
| 池谷徳次 | 戸島 豊治 | 池田 好 好 | 増田 邦彦 | 柘植 三 男 | 矢作 平 藏 |
| 玉井與助 | 島根岩次郎 | 澤畑 未 吉 | 齊藤 冬 作 | 齊 藤 昇 | 高橋 正 吉 |
| 石原神策 | 北村仁恭 | 中野周作 | 清水一雄 | 尾崎悦次郎 | 松本喜一郎 |
| 竹花 亨 | 村松信太郎 | 大塚鎌太郎 | 佐藤 眞 一 | 尾 崎 芳 治 | 古 澤 菊 郎 |
| 中里道之亮 | 川守 増 喜 | 榎 本 哲 行 | 宮 崎 新 助 | 薬 谷 清 | 神 田 守 見 |
| 坂場 春 彦 | 河西助二郎 | 鈴木重雄 | 山崎 眞 一 | 永 山 千 心 | 地 久 利 好 彦 |
| 鈴木久太郎 | 遠藤 春 雄 | 齊藤不二雄 | 小野寺金次郎 | 小 金 澤 竹 男 | 淺 見 駿 雄 |
| 土肥榮次郎 | 岡部 近 三 | 池田金治 | 弓谷 昌 三 | 尾 崎 豊 次 | 前 田 四 化 生 |
| 栗田幸藏 | 山 田 勝 | 京谷龍尾 | 兼城 謙 信 | 小 林 松 吉 | 風 間 六 郎 |